

成長する冷感生地

◆住友化学、ユタックス、リベルタがコラボによる新規な素材開発

2024年5月、美容用品、日用雑貨、機能衣料商品の企画販売など行うリベルタは、住友化学による固体ポリマー型温度調節材料「コンフォーマ」を用いた繊維と、インナウェアなどの製造・販売を行うユタックスが有する「冷感プリント」技術を組み合わせ、クーリングウェア「氷撃α」を全国販売すると発表した。順次、海外市場での販売も予定している。

「コンフォーマ」は、原料が30～40%植物由来成分であり、樹脂成分の相転移による潜熱を利用できるポリマーである。固体の状態を維持したままで吸熱と放熱が行えるのが特徴で、一般的な熱可塑性樹脂からなる合成繊維と同様に熔融紡糸で長繊維化が可能だ。「コンフォーマ」を使用した衣服では、環境温度に急激な変化があった場合でも、繊維自体の温度変化は緩やかに抑えられ、快適な温度状態を長時間保持できる。また、ユタックスの技術は裏地全面にエリスリトールやキシリトールを含有した特殊冷感プリントで繊維を処理しており、汗を吸収すると、その吸熱特性により繊維の温度が下がり、冷感を付与できる。

25年4月から開催予定の大阪・関西万博の住友館において、「氷撃α」の展示・販売も予定されている。

◆市場は4.9～7.7%で成長

世界の冷感生地の市場規模は、23年に21億ドルであり、32年までには32億ドル～36億ドルへ、年平均成長率4.9～7.7%で成長すると予測されている。温暖化が進む中、一般衣服用はもとより、特にスポーツウェア、アウトドア用、医療従事者用、防衛従事者用の衣服などへのニーズが高い。また、建設業・製造業における熱中症死傷災害の発生を避けるため、制服や作業着の見直しも行われている。

従来から、吸水速乾性、高熱伝導/熱拡散性などの原理を利用した冷感生地は各大手繊維メーカーから各種上市されている。近年は、アパレルや小売業界とのコラボレーションによる製品化が進み、24年も4月以降、多くの冷感生地を活用した衣服が上市されており、今後さらに拡大すると見込まれる。 【下田晃義】